

『十人町。朝永のアパート②』

朝永

浅野

朝永と浅野、二人で夕食を食べている。

朝永「こないださー、女子高生と話したんよ。」

浅野「へー。」

朝永「羨ましいでしょ。」

浅野「うん。なんでまた。」

朝永「新地のバスターミナルんところでたまたま隣に座ってさ。」

浅野「へー。あ、醤油とってくれる？」

朝永、浅野に醤油さしを渡す。

朝永「英検の帰りて言いよった。」

浅野「ふうん、知っとる子？」

朝永「ううん。」

浅野、スパゲティに醤油をだらだらかけている。

朝永「味ついとるでしょ。」

浅野「ん？」

朝永「スパゲティ。」

浅野「薄かとじゃなか？」

朝永「しんちゃんとのちりめんじゃこよ。自分で塩加減がよかて言うとったくせに。」

浅野「料理に使うと薄かね。ほうれん草も入っとるし。」

朝永「だから、じゃこん塩加減にあわせて味もつけたんよ。」

浅野「加減しすぎたんじゃなかや？」

朝永「おいしかよ。なんでんかんでん醤油ばかけて。醤油ん味しかせんごとなる。」

浅野「好きなんだよ、醤油が。」

朝永「塩分とりすぎ。」

浅野「みちるは糖分とりすぎやろ。」

朝永「は？」

浅野「甘かもんを、ばくばくばくばく。」

朝永「『通りもん』買うてきたんは誰ね？」

浅野「今日ん話はしとらんが。」

朝永「醤油は今ん話たい。現在進行形。」

浅野「せからしかね、髪 of 似合わんとか、醤油ばかけるなどか。」

朝永「まだ髪んことば言いよると？」

浅野「自分の言われたら気にするやろ。」

朝永「似合わんとは言うたらん。」

浅野「はいはい。」

朝永「・・・。」

二人、黙って食べる。

朝永「・・・干物、売れたと？」

浅野「ぼちぼち。」

朝永「ふうん・・・。」

浅野「・・・。」

朝永「・・・悪かった。」

浅野「・・・。」

朝永「髪んことは・・・。」

浅野「・・・。」

朝永「ごめん。」

浅野「・・・うん。」

朝永「けど、醤油んかけすぎは良うなかから。ほんとに。」

浅野「ああ・・・。」

二人、黙って食べる。

浅野「・・・で？」

朝永「ん？」

浅野「女子高生と話したとやろ。」

朝永「ああ、うん……。あとから男ん子もきた。高校生の。」

浅野「ふうん。彼氏ね？」

朝永「え？」

浅野「そん子の。」

朝永「どうやる。中学んときん同級生て言うとった。」

浅野「ふうん。」

朝永「よかな一、て思たんよ。」

浅野「何が。」

朝永「私、中学んとき友達おらんかったからさ。」

浅野「そうなの？」

朝永「うん。」

浅野「ふうん。何で？」

朝永「何でかわからんけど。帰宅部だったからやるか……。」

浅野「みちるは、みちるっぽいところあるからな。」

朝永「何ね、それ。」

浅野「ん一、ひとんこと、結構観察したりとか。」

朝永「……。」

浅野「まあ、そんなとことか、いろいろ。」

朝永「じゃから友達おらんかったってこと？」

浅野「いや、そうじゃなかけどさ。つか、中学んときのみちるんことはわからんけどさ。」

朝永「だよね。」

浅野「なじめんかったってこと？」

朝永「うーん……。中1んときね、小学校で仲良かった友達全員とクラスの離れたとよ。
他ん子は、2人とか3人とか、同じクラスになっつたのに、私だけひとりも一緒じゃなかの。」

浅野「ふうん。」

朝永「何でやったんかな……。」

浅野「ん？」

朝永「私だけ、ひとり。」

浅野「ほんとにみちるだけやったと？」

朝永「うん。」

浅野「ふうん。」

朝永「なんかね、すごくひとりな気がしてしもて。新しか友達も作りきらんで。他んクラ

スじゃ、みんな新しか友達作って、楽しそうで。」

浅野「ふうん……。」

朝永「ずっと仲良しだった子に、みちるは中学入って暗くなったね、って言われたんよ。」

浅野「……。」

朝永「でさ……。」

浅野「うん。」

朝永「考えすぎかもしれんけど、もしかして先生に嫌われとったんかな、て。」

浅野「先生？」

朝永「小6んときの先生ね。中1んクラスば決めるときは、小学校ん先生も関わるて聞いたことあって。」

浅野「そうなの？」

朝永「いや、実際どうなんかは知らんけど、もしそうだとすれば6年生んときの先生に嫌われとったんじゃなかやろか、て。」

浅野「考えすぎやろ。」

朝永「だと思う。自分でも。よか先生やったし。」

浅野「考えすぎだよ。」

朝永「だよね。」

浅野「うん。」

朝永「あん高校生2人と話してから、なんかそげなことずっと考えてしもて。」

浅野「……そっか。」

朝永「うん。」

浅野「……みちるはたぶん、それを忘れることはないんやろね。」

朝永「考えるってことは、そうなんかな。」

浅野「だよ。」

朝永「もう20年近く前ん話なのに。」

浅野「……。」

朝永「……。」

浅野「……、現在進行形で言うとき、そういう歴史もなんもかんも含めて、みちるやろ。」

朝永「歴史。」

浅野「まあ、大げさに言うと。そん、中学ん歴史ん無かみちるがおったとして、今ここにおるみちるとは違うわけやろ。」

朝永「ああ、うん。」

浅野「みちるはみちるだからなあ。」

朝永「……。」

浅野「ここにおる、今のみちるね。」

朝永「うん……。」

浅野「それでよかたい。うるさかけどな。」

朝永「何ね、それ。」